

実習内容一覧表（介護実習Ⅰ）

デイサービス実習（こども・福祉科 第2学年）5日間

1. 実習目標

- (1) 通所介護のサービス内容や利用者像を理解する。
- (2) 通所介護の援助の視点を理解する。
- (3) リハビリテーションの内容と方法を知る。
- (4) サービス利用者の基本的な日常生活援助について指導者の下に
見学・経験する。
- (5) 多職種連携の重要性を学ぶ。

2. 実習内容

- (1) 利用者のさまざまな暮らしの場を理解する。
- (2) さまざまな利用者に出会い、思いや願いにふれる。
- (3) 利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践を
する。
- (4) 多職種協働及びチームケアの理解と実践をする。

グループホーム実習（こども・福祉科 第2学年）5日間

1. 実習目標

- (1) 施設の概要とサービス利用者の一日の生活の流れを知る。
- (2) サービス利用者の生活を知る。
- (3) 認知症高齢者対応の具体的な内容と方法を知る。
- (4) サービス利用者の基本的な日常生活援助について学ぶ。
- (5) 多職種連携の重要性を学ぶ。

2. 実習内容

- (1) 利用者が一日をどのように過ごしているかを知る。
- (2) 職員の利用者へのかかわり方を知る。
- (3) 建物の構造を観察し、他の施設や自宅との違いを考える。
- (4) 「共同生活」が利用者にとどのような影響を与えているか考える。
- (5) 利用者とのコミュニケーションや作業を通じ、生活援助の課題
や生活援助技術のあり方を考える。

老健実習（こども・福祉科 第3学年）5日間

1. 実習目標

- (1) 施設の概要と一日の生活の流れを知る。
- (2) サービス利用者の生活を知る。
- (3) リハビリテーションの内容と方法を知る。
- (4) サービス利用者の基本的な日常生活援助について指導者の下に
見学・経験する。
- (5) 多職種連携の重要性を学ぶ。

2. 実習内容

- (1) 介護老人保健施設の意義と役割
 - ①介護老人保健施設のサービス内容
 - ②サービス利用者の様子
 - ③他職種との連携・チームケア
 - ④介護老人保健施設における介護職の役割
 - ⑤リハビリテーションの専門技術
 - ⑥在宅復帰に向けた援助
 - ⑦デイケアの機能と役割
- (2) 記録の書き方と活用
 - ①観察のポイント
 - ②記録用紙の種類・書き方
 - ③情報の共有
 - ④個人情報管理
- (3) サービス利用者とのコミュニケーション
 - ①入居者とのコミュニケーション
 - ②デイケア利用者とのコミュニケーション
 - ③非言語的コミュニケーション
- (4) 援助者とのコミュニケーション
 - ①介護職とのコミュニケーション
 - ②他職種とのコミュニケーション
- (5) 個別ケア
 - ①身体機能の低下したサービス利用者のリハビリテーション
 - ②肢体不自由のあるサービス利用者のリハビリテーション
 - ③感覚機能障害のあるサービス利用者のリハビリテーション
 - ④内部障害のあるサービス利用者のリハビリテーション
 - ⑤認知症のあるサービス利用者のリハビリテーション
 - ⑥疾患に応じたリハビリテーション
- (6) 生活とリハビリテーション
 - ①生活とリハビリテーション
 - ②機能低下予防の取組み
 - ③ICFの視点を踏まえたリハビリテーション
 - ④在宅支援
 - ⑤地域リハビリテーション

障害者支援施設実習（こども・福祉科 第2学年）3日間

1. 実習目標

- (1) 施設の概要と利用者の一日の生活の流れを知る。
- (2) 利用者の生活を知る。
- (3) 障害者との具体的なかかわり方を知る。
- (4) 利用者の基本的な日常生活援助について学ぶ。

2. 実習内容

- (1) 利用者が一日をどのように過ごしているかを知る。
- (2) 職員の利用者へのかかわり方を知る。
- (3) 施設内のバリアフリーデザイン、ユニバーサルデザインについて知る。
- (4) 利用者とのコミュニケーションや作業を通じ、介護のあり方を考える。

実習内容一覧表（介護実習Ⅱ）

第1段階（こども・福祉科 第2学年） | 4日間

1. 実習目標

- (1) 施設の概要とサービス利用者の一日の生活の流れを知る。
- (2) 介護職の業務内容、及び介護の役割について理解する。
- (3) サービス利用者の基本的な日常生活援助について指導者の下で経験する。
- (4) 様々な状況のサービス利用者とのコミュニケーションを図る。
- (5) サービス利用者を取りまく環境を理解する。

2. 実習内容

- (1) 介護の意義と役割
 - ①特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）の意義と役割
 - ②安全な介護
 - ③プライバシーの保護
 - ④サービス利用者の尊厳と自己決定を支える介護
 - ⑤介護従事者の倫理
- (2) 記録の書き方と活用
 - ①記録の意義と目的
 - ②観察のポイント
 - ③記録の方法
 - ④個人情報の管理
- (3) 居住環境の整備
 - ①環境整備の意義と目的
 - ②環境整備のポイント
 - ③室内・室外の清掃・整備
 - ④ベッド周囲の整頓・ベッドメイキングとシーツ交換
- (4) コミュニケーションの基本技術
 - ①コミュニケーションの意義と目的
 - ②コミュニケーションの実際
 - ③非言語的コミュニケーション
 - ④援助者間のコミュニケーション
 - ⑤レクリエーションの意義と目的及び基本的技法
- (5) 清潔保持と身じたく
 - ①清潔保持と身じたくの意義と実際
- (6) 安楽・休息
 - ①安楽な姿勢のとり方
 - ②体位変換とボディメカニクスの活用方法
- (7) 入浴の介助
 - ①入浴の意義と観察
 - ②入浴の実際
 - ③浴室の環境整備
- (8) 食事の介助
 - ①食事の意義と観察
 - ②配膳・下膳の方法
 - ③水分補給
 - ④多様な調理形態
- (9) 排泄の介助
 - ①排泄介助の意義と観察
- (10) 移動の介助
 - ①安全な移動方法
 - ②車いす介助
 - ③歩行介助・見守り

1. 実習目標

- (1) サービス利用者とのコミュニケーションを通してニーズを把握する。
- (2) サービス利用者の心身の状況に応じた基本的な日常生活援助を習得する。
- (3) 医療的ケアの内容、役割を学ぶ。
- (4) 在宅介護サービスの必要性を学ぶ。
- (5) 施設管理の概要を知る。
- (6) サービス利用者の情報収集、アセスメントの方法を学ぶ。
- (7) サービス利用者の生活課題を発見し、介護計画を立案する。

(14) 施設管理の概要

- ①施設の安全衛生管理
- ②緊急連絡システム・防災システム
- ③事故防止・対策

(15) 介護過程の展開 I

- ①サービス利用者の情報収集・アセスメント
- ②カンファレンス・申し送りの見学
- ③サービス利用者の生活課題の発見・計画立案
- ④ICFの視点での介護過程の展開

2. 実習内容

(1) 介護の意義と役割

- ①自立支援・潜在能力を生かした介護
- ②社会参加を支える介護
- ③QOLの向上を目指す介護
- ④ICFの視点を取り入れた介護
- ⑤サービス利用者のニーズの把握

(2) 記録の書き方と活用

- ①情報の共有
- ②記録用紙の種類

(3) 居住環境の整備

- ①睡眠の意義

(4) コミュニケーションの基本技術

- ①認知症や寝たきりのサービス利用者とのコミュニケーション
- ②サービス利用者の障害程度・種別に応じたコミュニケーション
- ③様々な療法を取り入れたレクリエーション

(5) コミュニケーションの応用技術

- ①サービス利用者の感情表現・表情を読み取る
- ②サービス利用者のニーズを読み取る

(6) 清潔保持

- ①口腔の清潔と入れ歯の取扱い
- ②清拭
- ③部分浴

(7) 安楽・休息

- ①安楽・休息の工夫

(8) 入浴の介助

- ①入浴の楽しみを支える介護
- ②プライバシーの保護
- ③半介助の入浴
- ④全介助の入浴
- ⑤衣服の着脱

(9) 食事の介助

- ①食べる意欲を支える介護
- ②安全・安楽な食事介助
- ③半介助・全介助を要するサービス利用者への介助方法
- ④認知症のサービス利用者への介助方法

(10) 排泄の介助

- ①排泄時の観察とプライバシー保護

(11) 移動・移乗の介助

- ①活動意欲を高める介護
- ②安全な歩行介助

(12) 医療的ケアの見学

(13) ショートステイ実習

- ①ショートステイの機能と役割

1. 実習目標

- (1) サービス利用者やその家族のニーズを知り、個々に応じた日常生活援助を行う。
- (2) サービス利用者の心身の状況に応じた日常生活援助を行う
- (3) 個別ケアを通して実践的な介護技術の定着を図る。
- (4) 介護職員の健康管理と資質向上の取組を知る。
- (5) 他職種の役割を知り、チームケア及びチームアプローチの意義と連携の重要性を学ぶ。
- (6) 立案した介護計画を実行する。
- (7) 実行した介護計画のモニタリング・再アセスメントを行い、よりよいサービス提供をする。
- (8) 実行した介護過程の評価を行う。

(15) 介護過程の展開II

- ①介護計画の実行
- ②モニタリングと再アセスメント
- ③介護計画の評価

2. 実習内容

- (1) 介護の意義と役割
 - ①緊急時の対応
 - ②終末期・看取りの介護
- (2) 記録の書き方と活用
- (3) 居住環境の整備
- (4) コミュニケーションの応用技術
 - ①サービス利用者の家族とのコミュニケーション
 - ②サービス利用者の心理
 - ③サービス利用者の納得と同意を得るには
- (5) 清潔保持
 - ①褥瘡予防
- (6) 安楽・休息
- (7) 入浴の介助
 - ①麻痺や拘縮のあるサービス利用者の介助
 - ②入浴拒否への対応
- (8) 食事の介助
 - ①身体機能障害のサービス利用者への介助方法
 - ②咀嚼機能低下や嚥下困難のサービス利用者への介助方法
 - ③感覚機能障害のサービス利用者への介助方法
 - ④自助具の活用
 - ⑤内部障害のサービス利用者への介助方法
 - ⑥経管栄養の実際
- (9) 排泄の介助
 - ①おむつの当て方・交換の方法
 - ②ポータブルトイレの使い方
 - ③トイレ誘導の方法
 - ④排泄状態の観察
- (10) 移動・移乗の介助
 - ①身体状況に応じた移動介助
 - ②安全な移乗方法
- (11) 個別ケア
 - ①高齢期に多い疾患の介護
 - ②感染症の実態・対応・予防
 - ③介護予防への取組
- (12) ショートステイ実習
- (13) チームケアとチームアプローチの理解
 - ①多職種連携の実際
 - ②チーム内での役割分担について
- (14) 介護従事者の資質向上
 - ①労働災害防止への取組
 - ②自己研鑽の重要性
 - ③介護従事者の健康管理・対策